

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	救助者搬送中に遭遇した雪崩による道路寸断事例
3. 体験した事例の中心的要素	スノーハイクから下山中に足を滑らせ転倒、負傷し歩行不能となった要救助者を救出。消防車両にて搬送中、雪崩により道路が寸断し孤立状態となったもの。更に吹雪のなか上部斜面表層には至る所に亀裂が見られ、再度雪崩発生による二次災害の危険性が考えられた。
4. 体験した事例の原因・理由	ここ数日間、寒暖の差が激しく、更に雪や雨が降るという気象状況から全層・表層雪崩が発生しやすい状況であった。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成27年1月11日 午後6時頃
2. 発生した当時の天候	雪
3. 発生した活動現場	屋外：冬期閉鎖されている山岳国立公園内
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。 回答者が、他人を負傷させそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	退路の消失、寸断、その他：雪崩に巻き込まれる
7. 事例体験時の活動	救助 その他：搬送途上
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：搬送途上
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○その他(当事者が4人以上の場合)	支援隊1名 救急隊1名 消防隊3名 救助隊5名

11. 事例発生時の経過。

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	支援隊長	救助した要救助者を車両にて搬送開始	同行者1名同乗
経過2	各機関員	吹雪と積雪のため徐行走行	時速15～20km
経過3	支援隊長	前方で雪崩による道路寸断確認	
経過4	各隊	車両から下車し雪崩箇所(約長さ20m×幅5m×高さ1.5m)及び周囲の状況を確認	
経過5	支援隊長	通信指令課に状況報告し関係機関へ除雪依頼	
経過6	各隊	雪崩箇所一部を除雪し要救助者及び同行者を脱出させ救急車にて搬送	活動方針決定
経過7	各隊	積雪した上部斜面表層の所々に亀裂確認	数十メートル規模
経過8	通信指令課	関係機関による除雪不可との回答	県・市
経過9	各隊長	2箇所に安全員を配置し雪崩箇所全部の除雪作業開始	活動方針決定
経過10	支援隊機関員	降雪により停車中の車両走行不能	
経過11	各隊	車両周囲を除雪、タイヤチェーンを装着し各車両を安全区域に退避	
経過12	各隊長	除雪作業完了。周囲の状況に細心の注意を払いながら脱出下山	

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。避難退避がうまくいった。資機材の機能が適切だった。個人装備が適切だった。現場周辺の地理を知っていた。指揮者が適切に指示した。後方からの監視の目が行き届いていた。他隊(員)との連携活動がうまくいった。その他：出場途上から雪崩発生を視野にいれ、隊員に注意を促していた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

●●●●●●●山間地救助出動雪崩発生箇所付近図

